



ともにあゆんだ50年

高石

輝

かがやき



市長祝辞

「音に聞く高師浜の…」と詠われた高石の地は古くから白砂青松の美しい景勝地として天下に知られ、市民の皆様方にこよなく愛されてきました。昭和30年代後半からは臨海部の埋め立てによる企業誘致により石油化学コンビナートが形成される中、初代市長である中山末吉氏は「臨海部開発の槌音（つちおと）を聞けば、高石町の発展は火を見るよりも明らか」と議会で演説され、単独市制を貫き高石市が誕生しました。



以来、本市は年々発展を遂げ、本年市制施行50周年を迎えます。これまで高石の発展にご尽力いただいた多くの方々に感謝申し上げます、この50周年を機にさらなる発展をめざし、新たな第一歩をします。まいります。

小さいまちだからこそ市民の皆様方と議会・行政がともに力をあわせて、思いやり、支えあう、温もりあるまちづくりの実現が可能であると確信しております。市民の皆様方におかれましては、今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

高石市長 阪口伸六



目次

輝 かがやき	2
ひとの輝	
めざすは 子育てナンバーワンのまち	6
子育て奮闘中！ママたちの夢ストーリー	8
光る個性を伸ばす 文教都市	10
一歩二歩 健やかに幸せに	12
まちの輝	
暮らしやすさがきらめくまち	14
たかいし彩時記	16
高師浜今昔ものがたり	18
伝えたい残したい 高石未来遺産	20
輝く高石50年 半世紀ヒストリー	22
未来を描くまちづくり	
はぐくむ 子どもを産み育てやすい環境を整える	26
はたらく 働きやすい環境を整える	27
けんこう いつまでも健幸にさせる環境を整える	28
すむ 住みたくなる環境を整える	29
高石市議会	30
つながるひろがる 姉妹都市・友好都市	32
高石インフォメーション	



元気いっぱいの小学生に笑顔の家族
健康づくりに励む人や未来を担う若者
仲間と励む部活動、そして祭りに高揚する人々
誰もが健やかに幸せになれるまち
高石市は「ひと」の「輝」であふれています



6	4	1
	5	
7	3	2

1/教育のまち 高石 学校と地域が一体となって子どもたちを育みます 2/地域に密着した利用者も安心の子育て支援センター 3/歩いて健幸 健幸ウォーキング 4/みんなが輝く成人式 5/クラブ活動が盛んな中学校 6/力士が幼稚園を訪問 園児たちが相撲に挑みました 7/まち全体が盛り上がる秋の風物詩 高石だんじり祭り





高石市が誕生して半世紀
高度経済成長期を背景に臨海工業地帯が形成され
まちは飛躍的な発展を遂げました
市民が暮らす「まち」という舞台に
50年の様々な「輝」が満ちています





7		5	1	
9	8	6		
10			3	2
			4	

1/市民の憩いの場である鴨公園 2/夜空を染める高石シーサイドフェスティバルの打ち上げ花火 3/幻想的な輝きを見せる臨海工業地帯の夜景 4/泉北クリーンセンターからの眺望 5,6/通勤に便利な充実の鉄道網(南海高師浜線、JR阪和線高木駅) 7/白砂青松の地を思わせる浜寺公園の松林 8/浜千鳥が舞う高師浜駅のスタンドグラス 9/高石漁港の夕日 10/ポート競技も行われる浜寺水路



ひとの
輝



めざすは

子育て



のまち



あおぞら児童会

保護者が、昼間に就労等により家庭にいない児童を健全に育成するための学童保育を行っています。平成28年度から、平日の開設時間を午後7時まで延長し、より利用しやすくなりました。



認定こども園

幼稚園と保育所の良いところをあわせ持つ認定こども園では、保護者の就労に関わらず各家庭のライフスタイルに合った保育が提供されています。



赤ちゃん広場

1歳までの赤ちゃんとお母さんたちの交流の場。様々な月齢の赤ちゃんとお会えます。

充実の子育て支援

「子育てするなら高石市」をキャッチフレーズに、高石市では様々な施策を展開しています。コンパクトな市内に保育所・認定こども園が10か所もあり、待機児童もなく、自宅の近くで子ども

をすぐ預けられる環境が整っています。また、児童が病気の際に一時的に保育を行う病児保育サービスには訪問型と施設型を設けているなど様々な子育て支援を行っています。

パパママ学級

パパ・ママになる方を対象に妊娠や育児について学びます。



一時預かり保育

家庭での育児が一時的に困難な場合、児童を預かる制度です。





子どもの成長と一緒に 自分も成長していきます

市 内には子育て支援センターが3か所もあって、とても便利。幼稚園や保育園では豊富なイベントが開催されているので、子どもたちが飽きずにいろいろな体験ができます。もうすぐ3人目が生まれますが、なるべく様々な経験を一緒にしたいですね。子どもたちの成長を見守りながら、私も成長したいと思っています。いずれは仕事に復帰するの夢の一つなんです。

牛山 恵さん

子育て奮闘中!!

ママたちの 夢ストーリー

縁あって高石市でママになった私たち
子育てはもちろん 家庭も仕事も高石市でなら幸せになれる——
夢いっぱいの日々を送っています

たくさんの可能性を持った 子どもたちの将来が楽しみです

家 事や子育てで忙しい毎日ですが、仕事で外に出ることによっていつもと違う時間が過ごせています。子どもたちは男の子4人、活発で仲が良い兄弟です。私が仕事で家にいない時であっても、自分でできることは自分で考えながらできるようになり、自立につながっています。おとなになっても、お互いに助け合う兄弟でいてほしいと願っています。

中島 由梨さん





子どもが大きくなっても たくさんのことを共有したい

実

家が近くにあり、週末はよく泊まりに行っています。そんな時は、親に子育ての悩みを聞いてもらうことも。世代を越えたふれあいに子どもたちも楽しんでいるようです。将来、子どもとは多くのことを一緒に体験していきたいですね。趣味のお菓子作りやバドミントン、母娘でショッピングにお茶…。今から楽しみです。日常の家族で過ごす時間を大切にしていきたいです。

村上 守美さん



子育て支援の イベントや施設が充実 子どもも喜んで参加しています

マ

タニティセミナーから始まり、離乳食講座や「赤ちゃんひろば」、無料のコミュニティ施設など、高石市の子育て支援はとても充実しています。大きくてきれいな図書館では絵本の読み聞かせがあり、子どもも喜んでます。物を手作りするのが好きなのですが、いつかは子ども用のグッズなどを作ってママ友たちとサークル活動をしたり、イベントに出店したりしたいですね。

吉村 有美さん



子どもたちのやりたいことを サポートしてあげたい

待

機児童がゼロなので待つことなく入園でき、3人目以降は就学・未就学に関わらず保育料が無料になるなど、市の支援には本当に助かっています。これから先、子どもたちにはたくさんの経験や交流の中で自分たちのやりたいことを見つけ全力で進んでほしいです。そして親としてそれぞれのやりたいことをサポートしてあげたいと思っています。

奥田 絵理香さん





小学校での「夢の教室」

夢を叶えたアスリートから夢を持つことの大切さを学んでいます。



小学1年生からの英語授業

小1から英語教育を実施。中3の英検3級レベル到達をめざしています。

学校施設などのハード面や
 生きる力を養う教育を進めるソフト面など
 優れた教育環境が整っている高石市
 学校や地域が一体となって
 未来を担う子どもたちを育んでいます

文教都市

光る個性を伸ばす

中学生の職場体験

市内の事業所で、実際に仕事を体験。働く人と接することで、働く意義を学びます。



数字で見る

高石の教育



学校耐震化率

100%



全普通教室の
エアコン設置率

100%



中学校の
完全給食実施率

100%



子どもたちの 心身を育てる 教育活動

高石市では魅力ある教育を推進し、社会で活躍できる人材を育成するため、グローバル化する社会を見据え英語教育や教育のICT化に力を入れています。

「小・中学校学力向上大作戦」と銘打ち、学校ごとに学力向上に取り組んでいます。また職場体験や福祉教育、登下校の見守りなど学校と地域との連携を大切にしています。

小学校での 福祉教育

点字や車椅子体験、認知症についての寸劇を鑑賞するなど、福祉への関心と理解を深めます。



見守り活動

保護者や地域の福祉員が連携し、子どもたちが安全に安心して登下校できるよう見守り活動をしています。



ICT化された 学習環境

情報化の時代に対応するため、学校のICT環境を整え、デジタル機器を活用した授業を行っています。





健幸づくり教室

有酸素運動や筋力づくり、ウォーキングを組み合わせ、個人に合わせた個別プログラムを行っています。



健幸ウォーキングロード (南海中央線)

せせらぎの流れる歩道を整備。歩いて楽しい道づくりを進めています。



一歩一歩

健やかに幸せに



健幸フェスティバル&高石マルシェ

南海中央線を歩行者天国にしたウォーキングイベントや高石マルシェは大勢の市民でにぎわいました。

たくさんあるよ♪
ウォーキング
イベント

「健幸」とは身体的な健康と
そして心も幸せであること
子どもからおとなまで 幅広い世代が
このまちでいつまでも健幸に過ごせるように
高石市ではウォーキングイベントや
健幸づくり教室など
様々な取り組みを行っています





健幸ウォーキングロード (芦田川遊歩道)

芦田川に沿って、季節感のある植栽で川岸を散策し、憩える場として整備されました。



スポラたかいしの温水プール

広いプールで、ゆったりと泳ぐことができます。水中ウォーキングやパワフルアクアなどの教室も充実。

毎日を健幸に いきいきと 暮らせるまち

高石市は地域活性化総合特区に指定され、スマートウェルネシティとして、ふれあい健康増進センター「スポラたかいし」や総合体育館「カモンたかいし」を拠点に、健幸のまちづくりに取り組んでいます。

文部科学省が連携して進める「健幸ポイントプロジェクト」は、40歳以上の市民の参加者が行った健康増進に対する努力や成果に応じてポイントを付与する制度で、市民のやる気アップにつながっています。また「歩きたくなるまち」をめざし、健幸ウォーキングロードの整備も行っています。1年を通して大勢の市民がウォーキングに参加しています。今後も、子どもから高齢者まで、楽しみながら健康づくりができる機会を提供していきます。



“毎日が元気” 健幸ウォーキング

市内4か所で月曜から金曜の朝に開催。いつでも誰でも参加でき、毎日の健康づくりに最適です。



ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク

浜寺公園で開催される親子を対象にしたイベント。ウォーキングやゲームで盛り上がります。





まちの 輝



毎回人気の工場夜景ツアー

臨海工業地帯

昭和30年代後半から泉北地区の臨海部埋め立てにより、石油化学コンビナートが形成され、府内有数の工業地帯となりました。現在も多くの工場が日夜稼働しています。近年、工場夜景ブームが起り、高石市の臨海工業地帯は重厚で近未来的な景観が人気を呼び、多くの工場夜景ファンが訪れています。

暮らしやすさが きらめくまち



鉄道の駅が
6つもあって
便利



JR阪和線



南海電鉄



魅力ある コンパクトシティ

高石市は面積約11km²というコンパクトなまち。南海本線とJR阪和線が、南北に走っています。市内には6つの駅があり、大阪中心部まで約20分、関西国際空港まで約30分でアクセスできます。また、阪神高速4号湾岸線、堺泉北有料道路など道路網も充実。平坦な土地のため、徒歩や自転車でも移動しやすく、快適で便利なまちとして発展しています。



4月 桜見どころ ポイントツアー

天女とともに市内の桜名所をめぐります。フォトコンテストに先駆けて開催。

桜フォトコンテスト

市内や浜寺公園の桜をテーマにしたフォトコンテスト。趣向を凝らした作品が多数寄せられます。



子ども会 カーニバル

ミニステージやスタンプラリーなど、家族で楽しめるイベントがいっぱい。



たか かい し

6月 シーサイド フェスティバル

高石の一大イベント。ステージイベントで盛り上がり、大阪の夏一番早く打ち上がる花火が夜空を彩ります。



8月

高石楽市楽座 羽衣七夕まつり

駅周辺の各種団体が連携して行う手作り型のイベント。ステージイベントのほか夜店も出店し、高石の夏の風物詩となっています。



6月

堺泉北港 スモールドラゴンボート大会

シーサイドフェスティバルと同日に浜寺水路で開催。水しぶきを上げて、熱戦を繰り広げる姿は圧巻です。

冬

泉州国際市民マラソン

早春の泉州路で行われる関西屈指のマラソン大会。5,000人以上のランナーが浜寺公園をスタートし、りんくうタウンをめざして駆け抜けます。



2月

健幸フェスティバル&高石マルシェ

「健幸」にちなんだ催しが盛りだくさんのイベントです。

11月



彩時記



10月

高石だんじり祭り

だんじりや花車が市内各所で曳行され、威勢のいい掛け声が響きます。やりまわしは迫力満点。



高石商工フェスティバル

商工業の活性化を目的に開催。魅力ある商品の展示や販売のほか、飲食コーナーもあり、家族で楽しめます。

10月

市民体育大会

自治会対抗リレーなど、様々な競技が行われます。毎年多くの方が参加され、スポーツの秋を楽しんでいます。

10月





歌川広重が描いた高師浜

浮世絵師・歌川広重が「六十余州名所図会」の中で「和泉 高師のはま」を描いています。

高師浜 今昔ものがたり

百人一首に詠まれた 風光明媚な景勝地

高師浜は古代以来、白砂青松の景勝地として知られ、多くの和歌に詠み込まれています。

祐子内親王家紀伊が詠んだ和歌

「音に聞く 高師の浜の あだ波は

かけじゃ袖の 濡れもこそすれ」

は、小倉百人一首にも選ばれました。

また、「古今和歌集」、「新勅選和

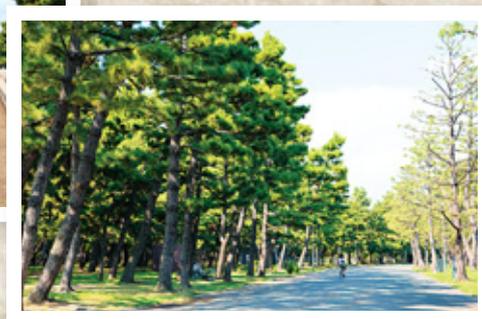
歌集」、「続古今和歌集」など多くの

和歌集の歌の中にも高師浜が登場

します。



浜寺水路



浜寺公園



イベントで活躍する天女衣装のボランティア

桜見どころポイントツアーや、シーサイドフェスティバルなどのイベントでは、天女衣装を身にまとったボランティアの「天女さん」や、高石商工会議所のイメージキャラクター「てんにょん」が活躍しています。



天女サミット

平成26年に初開催の天女サミットには、天女による地域活性化に取り組む全国7市町の首長らが集います。



羽衣天女グッズ

「天女の住まう街 高石」を広くPRするため、スポーツタオルやポロシャツなど、「羽衣天女」のオリジナルグッズを販売しています。

明治37年(1904)に起きた日露戦争により、高石市と泉大津市の海浜一体に約2万8千人を収容した国内最大級の施設「濱寺ロシア人俘虜収容所」が設置されました。大正4年(1915)には人口4809人をもって町制に移行。大正から昭和初期にかけて、浜寺・高師浜海水浴場は東洋一の海水浴場一大リゾート地として、年間約百万人の観光客でにぎわいました。

現在、高石市では、「羽衣天女」をモチーフに、「天女の住まう街」として様々なシティブロモーションに取り組んでいます。

リゾート地から 天女の住まう街へ



海水浴場としてにぎわった高師浜



濱寺ロシア人俘虜収容所

伝えたい残したい

高石未来遺産

まちのそこそこには

今でも往時の面影を感じさせる

歴史遺産・文化的景観が残っています

高石のあゆみを次代へと繋ぐ

未来遺産として

それらを大切に守り伝えていきます

01 高石神社

行基出身の高志(たかし)氏ゆかりの神社で、境内に林立する石灯籠、石碑、歌碑などは神社の歴史を物語り、本殿を囲む松林はかつての“高師濱”の景観を偲ばせます。



02 高師浜駅

たかしのほま

西洋風デザインの駅舎は、現在も大正8年(1919)の開業当時のままの姿で残っていて、駅舎の上部にあるステンドグラスには、波の上を舞う浜千鳥が描かれています。



04 専称寺

せんしょうじ

寺地は鎌倉時代から室町時代にかけての綾井城の跡で、本堂を中心に濠を配した寺域は中世の武士の居城の姿を今に伝えています。

03 紀州街道

江戸時代に紀州藩の参勤交代に使われ、紀州街道と呼ばれました。大阪と和歌山を結ぶ幹道のひとつで重要な道路でもありました。



06 だいゆうじ 大雄寺石碑

南北朝時代、後村上天皇から厚い帰依を受け三光国師が建立した大雄寺は、南朝の拠点でした。現在、その面影はなく、伽羅橋駅前に「大雄寺旧蹟」の記念碑が建てられています。



07 とのぎ 等乃伎神社

この地の古代氏族である「殿来連」の氏神社にはじまると考えられる式内社です。「とのぎ」の地名は古く「古事記」に仁徳天皇時代、影が淡路島に届くほどの巨木が兎寸河の西にあったと記されています。



09 あやい 綾井の清水

綾おりのように美しい水が湧くことから綾井という地名の由来となつたと伝えられています。昭和30年頃まで水が豊富に湧いており、汲みに来る人が絶えませんでした。当時からは水量が減ったものの、現在でも清水が湧き出しています。

05 きゃらばし 伽羅橋

芦田川に架けられていた紀州街道の橋で、慶応元年(1865)につくられ、昭和63年(1988)に芦田川改修工事で高砂公園に移設されました。平成20年(2008)に国の有形文化財に登録されています。



08 はごろもはま 羽衣濱神社

境内には霊泉といわれる井戸水が湧くことから、井戸之守大明神として尊ばれてきました。また、江戸中期の手造手水鉢や石造鳥居なども境内にあります。



むかしむかし

高石には…

大園古墳が
ありました

西取石から綾園にかけての1帯、南は泉大津市・和泉市まで広がる大園遺跡は、旧石器時代から近世にいたる複合遺跡です。遺跡内にある大園古墳は、出土した円筒埴輪などから5世紀末〜6世紀初頭につくられたことがわかり、大園遺跡の古墳時代の集落群との強い関係を考えさせる地域首長墓です。

大工村が
ありました

高師浜1丁目一帯は江戸時代、高石北村といいましたが、住民の多くが大工職に従事していたので、一部の地域は大工村と呼ばれ、幕末安政期の京都御所の造営にも加わっています。

大工村で発明された千歯抜きという脱穀用の農具は、日本の農業生産力を飛躍的に高めました。

50 anniversary

輝く高石50年

半世紀 ヒストリー

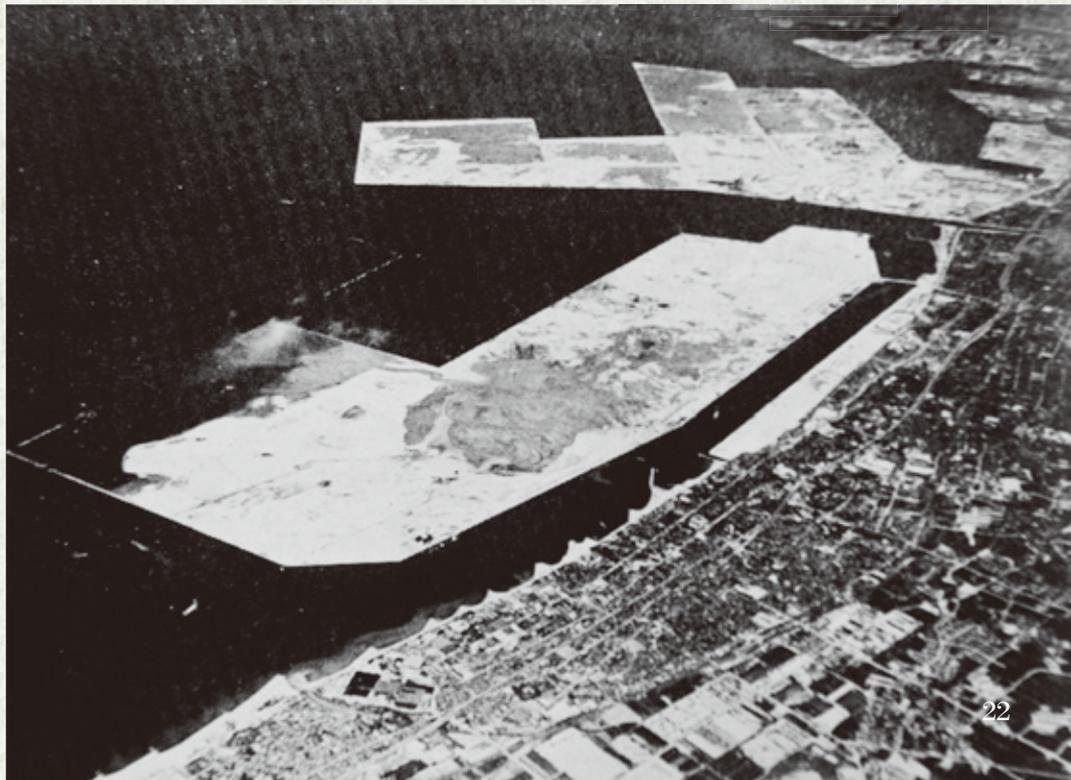


昭和41年	11月	市制施行 初代中山末吉市長初登庁
昭和42年	2月	浅野政雄市長が初当選
昭和44年	10月	鴨公園完成
昭和45年	8月	府内初の公害防止協定締結
昭和46年	11月	市民憲章・市の木・花・歌制定
昭和47年	4月	高師浜野球場・運動場オープン
昭和51年	10月	市役所新庁舎完成
	11月	市制施行10周年
昭和53年	8月	高石駅東D地区再開発ビル完成
昭和56年	10月	ロミタ市と姉妹都市協定締結
昭和59年	4月	芦田川改修事業着手
昭和61年	11月	市制施行20周年
昭和62年	4月	ふれあいゾーン複合センターオープン
平成3年	2月	寺田為三市長が初当選
平成4年	5月	パンセ羽衣（慶翠苑・羽衣公民館）オープン



市制施行（昭和41年）

臨海コンビナートの形成（昭和37年頃）



臨海部開発の槌音を聞けば

高石町の発展は火を見るよりも明らか――

泉北郡高石町から

高石市へと単独市制を施行



市制施行20周年（昭和61年）



南海本線等連続立体交差事業

平成15年	平成13年	平成11年
3月 高石駅東B地区再開発ビル「アプラた かいし」完成	4月 高石市ホームページ開設 2月 診療センター、母子健康センター完成	2月 総合保健センター、老人保健施設「ぎや らの郷」完成 10月 複合コミュニティセンター「とろしプラ ザ」完成 11月 市営浜墓地開設 3月 ふるさとと川整備事業、第一期工事完成 (菅田川ふるさと広場完成)

ベッドタウンとして急速に市街化

人口急増に対応するため

基盤整備が進められ

昭和60年に人口66974人と

ピークを迎える

※国勢調査による



とろしプラザ完成 (平成11年)

平成6年

7月
ふるさと村キャンプ場オープン 清水町
(現 有田川町) と友好都市提携調印

平成7年

10月
市役所庁舎別館完成

平成8年

1月
阪神・淡路大震災(職員派遣等支援の
実施)

平成9年

6月
高師浜運動広場を人工芝生化

平成10年

4月
鴨公園にせせらぎ水路完成

アプラたかいし完成 (平成15年)



バブル崩壊後 地価の下落と

税制改正による急激な市税の収入の減少

大規模なプロジェクトの推進による歳出増で

財政状況が悪化

50 anniversary

輝く高石50年

半世紀 ヒストリー



平成15年	4月	堺市との合併を問う住民投票は「合併に反対」が多数を占める 阪口伸六市長が初当選
平成16年	12月	第一次高石市財政健全化計画案を策定
平成16年	10月	第二次高石市財政健全化計画案を策定
平成18年	2月	第三次高石市財政健全化計画案を策定
	2月	高石市消防団を結団
	4月	南高砂に5万トン級船舶が利用可能な多目的国際ターミナル完成
	11月	市制施行40周年
平成19年	6月	高石市企業立地等促進条例制定
	8月	高石市学校教育施設耐震化計画を策定
平成20年	2月	第四次高石市財政健全化計画案を策定
	11月	総合避難訓練を実施（以降、毎年実施）
	11月	たかいしスクールニューディールを策定
平成21年	6月	「夢の教室」を実施
平成22年	9月	スポラたかいしリニューアルオープン
平成23年	3月	東日本大震災（被災地への支援を実施）
	4月	学校施設耐震化100%達成



カモンたかいし完成（平成27年）



高石市消防団を結団（平成18年）



学校耐震化100%達成（平成23年）

高石市の自立再生に向け 財政健全化を推進

一方で学校耐震化100%達成

教育・子育て支援の充実

防災対策や健幸のまちづくりの推進など

市民福祉の向上に資する施策を推進

歴代市長



中山 末吉

(昭和41年11月1日～昭和42年1月)



浅野 政雄

(昭和42年2月～平成3年2月)



寺田 為三

(平成3年2月～平成15年4月)



阪口 伸六

(平成15年4月～)



芦田川遊歩道の整備 (平成28年)



総合避難訓練



高架化の開通式典 (平成28年)

平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年
5月 南海本線下り線(関西空港・和歌山市方面行き)の高架化完成	4月 芦田川遊歩道整備事業一部完成	4月 新村北線全線開通	3月 カモンたかいし完成	2月 高砂1号線の液状化対策工事の完成
	1月 健幸ポイントプロジェクト実施	11月 健幸フェスティバル&高石マルシェを開催	8月 健幸コミュニティ農園スタート	4月 高師浜運動広場がリニューアルオープン
			9月 高陽幼稚園敷地内に津波避難タワーを整備	7月 南海中央線に市内初の自転車道を整備
			6月 高石シーサイドフェスティバルを開催	2月 スマートウェルネスシティ取組みスタート
				8月 第五次高石市財政健全化計画案を策定
				6月 JR富木駅西口駅舎完成

はぐくむ

子どもを産み育てやすい
環境を整える



子育て支援センター

地域の子育て家庭への支援を行うため、様々な事業を実施。育児講座やイベントの開催、育児情報の提供などもしています。

急 激な少子化が進むなかで、高石市では、安心して子どもを産み育てることができ環境づくりを進めています。

保育・教育環境の整備や学童保育・子ども元気広場の充実、病児保育の開始など、働きながら子育てがしやすい環境が整っています。

また、アプラたかいし内に子育て世代ウェルカムステーションを整備し、子育て世帯向けの不動産情報や市内の子育てサービスを紹介することで、子育て世帯の転入や定住を促進します。

妊娠から出産、産後まで切れ目なくワンストップで総合的な相談支援を行う子育て世代包括支援センターを市役所内に設置するほか、市内の子育て支援センターには子育て支援コンシェルジュを配置し、気軽に相談できる環境をつくります。



産後ケア

育児不安や身体疲労を軽減することで楽しく育児ができるようケアしています。ケアの内容は個別でプランを作成しています。



子育て世代ウェルカムステーション事業

子育て相談や一時預かり保育をスタートさせ、市内の子育てサービスなどを紹介します。

未来を描く



まちづくり

はたらく

働きやすい環境を
整える



たかいし合同企業説明会

市内の企業と求職者のマッチングが進むように、高石商工会議所、並びに池田泉州銀行との産業振興連携協力事業の一環として合同企業説明会を開催しています。

活

発な産業とともに、発展してきた高石市。働きやすい環境を整えることで、より活

力のあるまちをめざしています。就職に有利な資格の取得支援や就労コーディネートによる個別相談など就労に関する様々なサポートのほか、市内企業による合同企業説明会や就職情報フェアなども開催しています。

職住近接に向けて、市内事業所の在勤者を対象とした住宅政策を積極的にを行っています。また、市内企業の新規創業や設備投資に関する支援にも取り組んでいます。

女性がより一層社会進出し、多様な生き方ができる男女共同参画社会の実現に向け取り組んでいます。



堺泉北臨海工業地帯

日本国内有数の臨海工業地帯には、大手企業を含む多数の企業が集積し、市内だけでなく市外からも多くの方が通勤しています。



高石市結婚サポートスキルアップ事業

少子化対策の一環として実施。結婚へのイメージをアップさせる場となっています。

けんこう

いつまでも健幸にすごせる
環境を整える



高石市立総合体育館「カモンたかいし」

各種スポーツで利用できるアリーナやトレーニングルームなどがあり、市民の健康増進と体力づくりの拠点となっています。

高 石市では、すべての市民が健幸にすごせるまちづくりを進めています。

これまでも地域活性化総合特区として、スマートウェルネスシティとしての取り組みを先進的に行ってきた。市民のスポーツに対する関心が高まっており、楽しみながら健康づくりができる機会の提供やスポーツという観点からの地域コミュニティの創出を図っています。中でも、高石市立総合体育館「カモンたかいし」は健康づくり教室の開催やフィットネスなどが利用でき、市民の健康づくりの拠点となっています。

また、在宅医療や介護が充実した地域包括ケアのまちづくりに取り組み、小学校区ごとに生活支援コーディネーターや保健師を配置し、一人ひとりに合わせたきめ細かい対応をしています。



いきいき百歳体操

介護予防・健康増進のために、地域の方が集まる場所で重りを使った筋力アップ体操をしています。



コミュニティカフェ

民生委員や福祉委員と連携しながら、地域づくりの拠点として全自治会でコミュニティカフェの開設をめざしています。

未来を描く



まちづくり

すむ

住みたくなる環境を
整える



羽衣駅前地区第一種市街地再開発事業(イメージ図)

交通結節点の機能を最大限に活かし、にぎわいの創出と景観の整った北の玄関口にふさわしいまちづくりを進めます。

高

石市では移住・定住を促進するため、住みたいと思える環境づくりに取り組んでいます。

利便性の高い文教都市として広く認知してもらうため、特に子育て世代をターゲットにした情報発信を行い、まちの魅力を前面に出したブランド戦略を推進しています。また、都市再生の取り組みとして導入した空き家バンク制度を本格的に運用していきます。

羽衣駅周辺については、通勤・通学の利便性と安全性を考慮し、再開発事業に合わせて南海羽衣駅とJR東羽衣駅を接続するペDESTリアンデッキの整備を行います。また、高石駅周辺については連続立体交差事業の完成を見据え、地域にふさわしいまちづくりを進めていきます。



自転車道等の整備

安全安心な道路環境を整備しています。



南海本線・高師浜線連続立体交差事業

南海本線と高師浜線を高架化し、交通の円滑化を図ります。



高石市議会

市議会では「未来に誇れるまち高石」の構築に向けて
議員一丸となって取り組みます



議員一覽

議長



森 博英

副議長



宮口 典子



二瓶 貴博



松本 善弘



山敷 恵



寺島 誠



永山 誠



畑中 政昭



明石 宏隆



出川 康二



木戸 晃



久保田 和典



佐藤 一夫



清水 明治



東野 隆史



古賀 秀敏

議席順・敬称略



Lomita

姉妹都市

アメリカ合衆国 ロミタ市

昭和56年(1981)10月、アメリカ合衆国カリフォルニア州のロミタ市と姉妹都市提携を結びました。
ロミタ市はロサンゼルス市から南へ約40km、ローリングヒルという美しい丘のふもとにある人口約2万人、面積3・5kmのまちです。ロサンゼルス市の衛星都市として発展してきました。高石市姉妹都市協会を通じ、年1回の交換留学や泉州国際市民マラソンへのランナーの招聘など、海を越えた交流を行っています。

つながる ひろがる



友好都市

和歌山県 有田川町

平成6年(1994)7月から「ふるさと村キャンプ場」の開設を機に友好都市となった清水町が近隣の町と合併し、有田川町が誕生し、平成18年(2006)11月に新たな友好都市提携を結びました。
有田川町は和歌山県のほぼ中央に位置する自然豊かなまち。現在も夏休みには「ふるさと村キャンプ場」へ多くの市民が訪れています。また、平成27年(2015)には1万匹の鈴虫が寄贈されるなど様々な交流を行っています。

Aridagawa





高石インフォメーション

市の花 … 菊

菊の寄り添った花弁は市民が力を合わせて住みよいまちをつくる姿を表し、菊のさわやかな香りは文化の実りを思わせます。菊の花の気品に満ちあふれた様子が、市民の誇りと願いに一致するため、昭和46年11月22日、菊を市の花に制定しました。



市の木 … 松

白砂青松の名勝地であった高師浜は、多くの和歌に詠み込まれています。人々に親しまれ、やすらぎを与えてくれる松林。高石市が、いつまでも緑あふれるまちであることを念願し、その象徴として昭和46年11月22日、松を市の木に制定しました。



市章

高石市の「高」を図案化。台の円は、市民の幸福と協和を意味し、その上に高石市が高度に発展することを象徴しています。一般公募により昭和41年12月20日に制定しました。



位置・地勢

高石市は、大阪府の南部に位置し、北と東は堺市に、南は和泉市・泉大津市にそれぞれ隣接し、西は大阪湾に面しています。大きさは、東西6.1km、南北4.1kmであり、市域が11.3km²というコンパクトな都市です。温暖な気候と相まって、便利で住み良い住宅地として発展しています。



高石にアクセス

市ウェブサイト

<http://www.city.takaishi.lg.jp>



高石フォトブログ

<http://takaishi.seesaa.net>



Facebook **REBOOT**

<https://www.facebook.com/reboot.takaishi>



名誉市民



川淵 三郎 氏

1936年、高石市生まれ。大阪府立三国丘高校、早稲田大学、古河電工サッカー部でプレー。日本代表監督、Jリーグ初代チェアマンを経て、第10代日本サッカー協会(JFA)会長を務めました。社会貢献活動にも心血を注ぎ、スポーツ界のリーダーとして活躍しています。

※他に故人として、今西寿雄氏、葉室鐵夫氏、中山末吉氏、浅野政雄氏が名誉市民です。

天女の住まう街



TAKAISHI CITY
高石市



大阪府高石市 市制施行50周年記念誌

発行年月 平成28年10月

発行 高石市

〒592-8585 大阪府高石市加茂4丁目1番1号

TEL 072-265-1001

FAX 072-263-6116

URL <http://www.city.takaishi.lg.jp>

制作 株式会社 日本出版